オーディオ機器の正しい使いかた　4

AV レシーバー

TX-L5

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書
とともに大切に保管してください。

特長

TX-L5は、ご家庭のTVラックに無理なく入るリビングサイズのAVレシーバーです。

アンプ部

■ 定格出力（6Ω・1kHz・0.6%THD）：
フロント 22W+22W、センター 22W、
サラウンド 22W+22W

■ 高速処理と信頼性に優れた24bit DSPチップ採用

■ 音声信号の大きさの基準となるグランド電位の安定化

■ ドルビー※1デジタル＆ドルビープロロジックⅡデコーダー、DTS※2デコーダー、AACデコーダー搭載

■ スマートコンフィグ機能装備

■ アコースティックコントロール

■ サブウーファープリアウト

■ 5つのオーディオ入力と3つのオーディオ出力端子装備

■ Sビデオ入出力装備

■ 耐熱設計の薄型電源トランス

■ アルミニウム製押し出し大型ヒートシンク搭載

■ デジタル入力端子として、光端子3系統装備

■ オンキヨーオリジナルサラウンドモードは洗練された5モード（オーケストラ、アンプラグド、スタジオミックス、TVロジック、オールチャンネルステレオ）に厳選し、ナチュラルな音声作りを実現

■ レイトナイト機能

チューナー部

■ 30局ランダムプリセット

■ FMオートチューニング

■ FM室内用アンテナ、AM室内用アンテナ付属

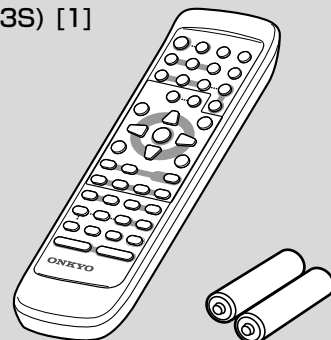
※1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、Dolby、プロロジック、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

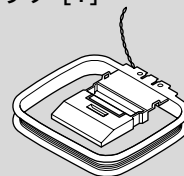
※2 本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
"DTS"、"DTS Digital Surround"は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433
5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297
236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/
02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584
5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238
5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189
5,581,654 5,548,574 5,717,821

付属品を確認する

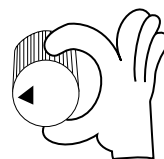
本機には以下の付属品が同梱されています。
お確かめください。
［ ］内の数字は数量を表わしています。

●リモコン(RC-453S) [1]
● 単3乾電池 [2]

● FM室内アンテナ [1]

● AM室内アンテナ [1]

● 取扱説明書 （本書）[1]

● 保証書 [1]

音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

メモリー保持について

本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、登録したチューナーのプリセット局やスピーカー設定、リスニングモード設定などを停電時などに保持するためのものです。2週間以上本機の主電源を切った状態にしておくと、メモリー内容は消えてしまいます。

目次

機能と接続

電源を入れ、本機の設定をする

音楽／映画鑑賞をする

サラウンドを楽しむ／録音・録画する

その他

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

● 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでくだい。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
● 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

● 本機を使用できるのは日本国内のみです。
● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

● 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

● 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

● 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠警告

■ 中に物を入れない

● 本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 電源を入れたときは、音量に注意してください。

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 電池について

- 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

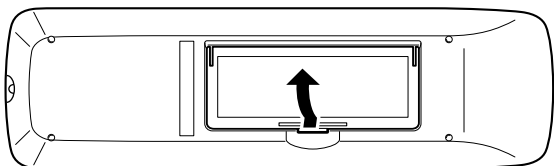
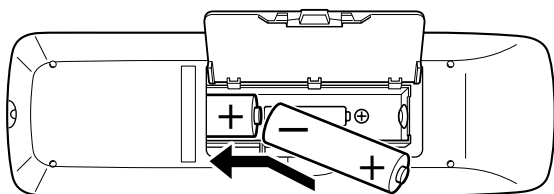
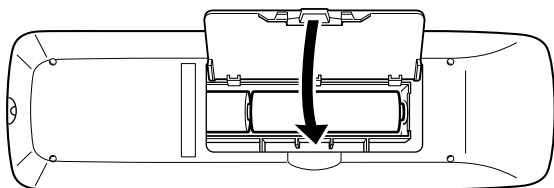
- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
  本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
- アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
- 屋外アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
- BS放送受信用アンテナは強風の影響を受けやすいので堅固に取り付けてください。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
  化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

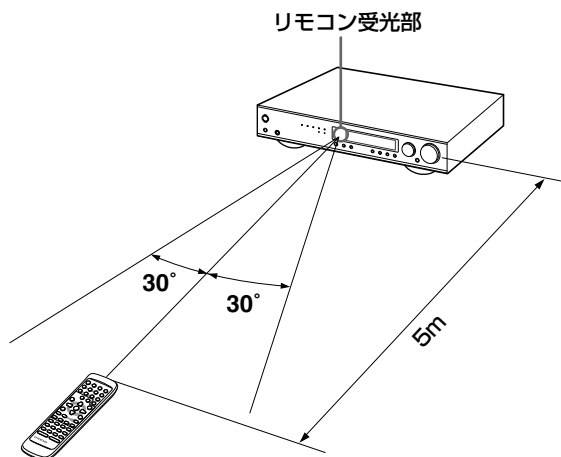
リモコンを準備する

乾電池を入れる

① カバーを矢印の方向に押し上げてはずす。

② 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる。

③ カバーを戻す。

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、ただちに古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 使用頻度にもよりますが、付属の電池の寿命は約6ヵ月です。電池は、単3型（AA／UM-3）をご使用ください。

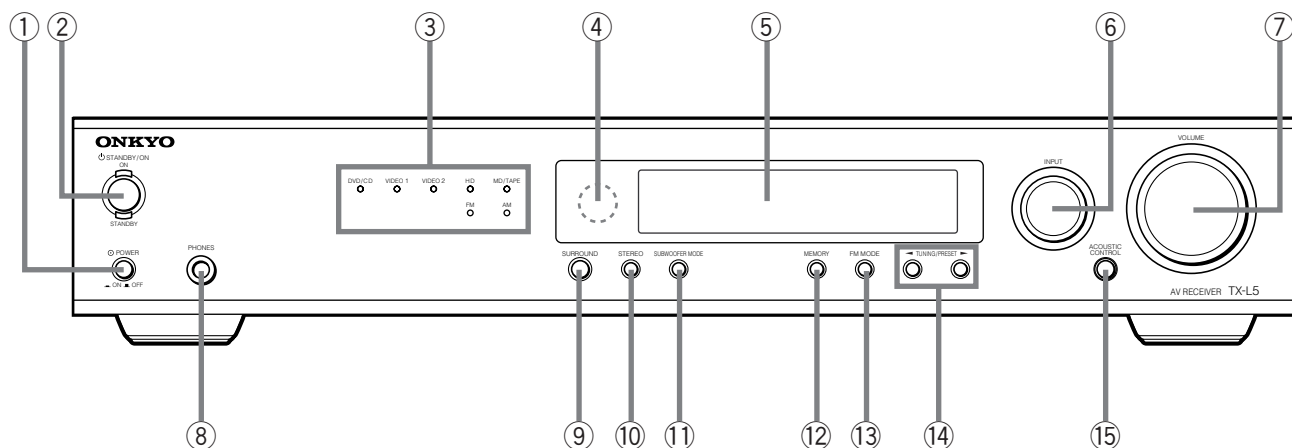
リモコンを使う

リモコンを本機の受光部に向けて使用してください。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

各部の名称

[ ] 内のページは、参照ページを示しています。

■ 本体前面

① POWERスイッチ（主電源）［20］
本機の電源を入れます。主電源が入ると、STANDBYインジケーターが点灯します。もう一度このスイッチを押して切（■ OFF）の状態にすると主電源が切れます。

- 主電源を入れる前に、すべてのコードが正しく接続されていることを確認してください。
- 主電源を入れると瞬間的に大きな電流が流れ、他の機器の動作に影響を与えることがあります。コンピューターなど繊細な機器とは別系統のコンセントに接続してください。

② STANDBY/ONボタン、ONインジケーター、STANDBYインジケーター［20］
主電源が入っているときに押すと、STANDBYインジケーターは消灯し、ONインジケーターと表示部が点灯し、約5秒間音量が表示されたあと、入力ソースとリスニングモードが表示されます。もう一度押すと、本機をスタンバイ状態にします。スタンバイ状態では、ONインジケーターと表示部が消灯し、操作はできません。

③ 入力インジケーター［29、30］
選択されている入力ソースに応じてインジケーターが点灯します。

④ リモコン受光部［9］
リモコンからの操作信号を受けます。

⑤ 表示部［12］

⑥ INPUT（入力切り換え）つまみ［28-30］
入力ソースを選びます。

⑦ VOLUME（音量調整）つまみ［28、30］
音量を調整します。時計方向に回すと音量が大きくなり、逆方向に回すと音量が小さくなります。

⑧ PHONES（ヘッドホン）端子［33］
ステレオヘッドホンを接続するための標準ステレオ端子です。左右フロントスピーカーの音声がヘッドホンに出力されます。ヘッドホンプラグを挿入するとスピーカーからの音は出なくなり、リスニングモードは自動的に「STEREO」に切り換わります。

⑨ SURROUNDボタン［36］
サラウンドモードを選びます。

⑩ STEREOボタン［36］
リスニングモードを通常のステレオ音声にします。

⑪ SUBWOOFER MODEボタン［25］
サブウーファーモードを選択します。

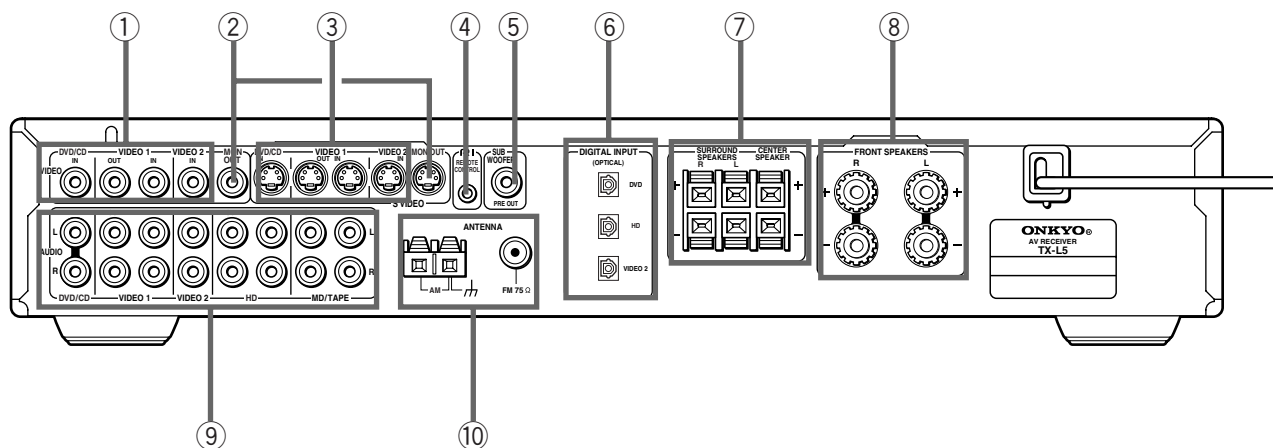
⑫ MEMORYボタン［28、29］
FM/AM放送のプリセットや、取り消しを行います。

⑬ FM MODEボタン［28、29］
ステレオとモノラルを切り換えます。FMステレオ放送を受信しているときに、音が途切れたり雑音が多いときこのボタンを押します。

⑭ TUNING/PRESET ◄/►ボタン［28、29］
放送局を選びます。受信周波数は表示部に表示され、FMの場合は100kHz単位、AMの場合は9kHz単位で変わります。また、希望の周波数を希望のプリセット番号に登録し、簡単に呼び出せます。

⑮ ACOUSTIC CONTROLボタン／インジケーター［38］
アコースティックコントロールを切り換え、重低音／高音を強調した迫力のあるサウンドを楽しむことができます。

［　］内のページは、参照ページを示しています。

■ 本体背面

① VIDEO端子（DVD/CD IN、VIDEO 1 OUT／IN、VIDEO 2 IN）［14、15］
3系統の入力と1系統の出力があります。映像入力端子にはDVDプレーヤーやLDプレーヤー、ビデオデッキなどのビデオ機器を接続します。映像出力端子にはビデオデッキなどのビデオ機器を接続します。

② MON OUT端子［14、15］
モニター出力にはコンポジット映像端子とS映像端子があります。テレビまたはモニターを接続します。

③ S VIDEO端子（DVD/CD IN、VIDEO 1 OUT／IN、VIDEO 2 IN）［14、15］
3系統の入力と1系統の出力があります。映像入力端子にはDVDプレーヤーやLDプレーヤー、ビデオデッキなどのビデオ機器を接続します。映像出力端子にはビデオデッキなどのビデオ機器を接続します。

④ RI端子［19］
RI端子付きのオンキヨー製CDプレーヤーやカセットテープデッキなどを、各機器に付属のRIケーブルで接続してください。本機に付属のリモコンでこれらの機器を操作することができます。

RI端子を接続したあとは、他機操作用のリモコンボタンを確認してください。（☞31ページ）

- 必ずRIマークの付いた端子に接続してください。
- RIケーブルで接続した場合も、オーディオ用ピンコードは必ず接続してください。
- 本機のRI端子は、オンキヨー製品と組み合わせた場合のみに使用できます。オンキヨー製品以外の機器とは接続しないでください。故障の原因となります。
- 機器による接続順序は特にありません。

⑤ SUB WOOFER PRE OUT端子［17］
アクティブサブウーファー（アンプ内蔵のサブウーファー）を接続します。

⑥ DIGITAL INPUT（OPTICAL）端子（DVD、HD、VIDEO 2）［14、15］
デジタル入力端子として、光端子（OPTICAL）が3つあります。これらの入力端子にDVDプレーヤー、ハードディスクレコーダー、CDプレーヤーなどのデジタルソース機器を接続します。

⑦ SURROUND SPEAKERS L/R端子、CENTER SPEAKER端子［17］
センター、左右サラウンドの各スピーカーを接続します。

⑧ FRONT SPEAKERS L/R端子［17］
左右フロントスピーカーを接続します。

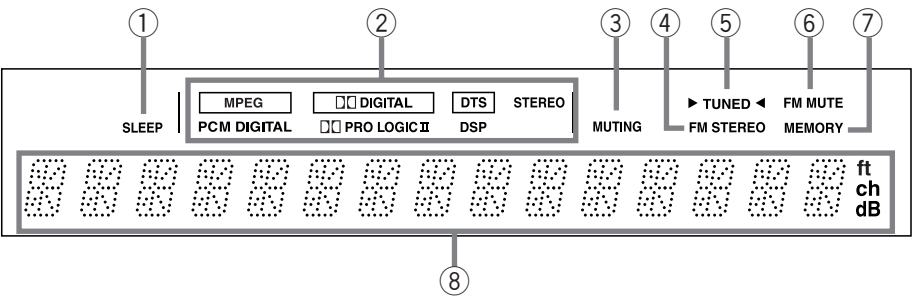
⑨ AUDIO L/R端子（DVD/CD IN、VIDEO 1 OUT／IN、VIDEO 2 IN、HD OUT／IN、MD/TAPE OUT／IN）［14、15］
アナログ音声の入出力端子です。音声入力は5系統あり、音声出力は3系統あります。音声入出力端子の接続には、RCAタイプのオーディオ用ピンコードが必要です。

ビデオデッキなどのビデオ機器を接続する場合、オーディオ用ピンコードとビデオコードは同じ系統の端子（例えばVIDEO 1）に接続してください。

⑩ アンテナ端子［18］
FMアンテナとAMアンテナを接続します。

各部の名称

［　］内のページは、参照ページを示しています。

■ 表示部

① **SLEEP表示［33］**
スリープ機能使用時に点灯します。

② **入力音声方式／リスニングモード表示［36］**
入力するソースに応じて「MPEG」、「PCM DIGITAL」、「□□ DIGITAL」、「DTS」のいずれかのソース表示が点灯します。また、リスニングモードに応じて「□□ PRO LOGIC Ⅱ」、「DSP」、「STEREO」のいずれかのリスニングモードが点灯します。

③ **MUTING表示［33］**
ミュート機能使用時に点灯します。

④ **FM STEREO表示［28］**
FMステレオ放送を受信すると点灯します。

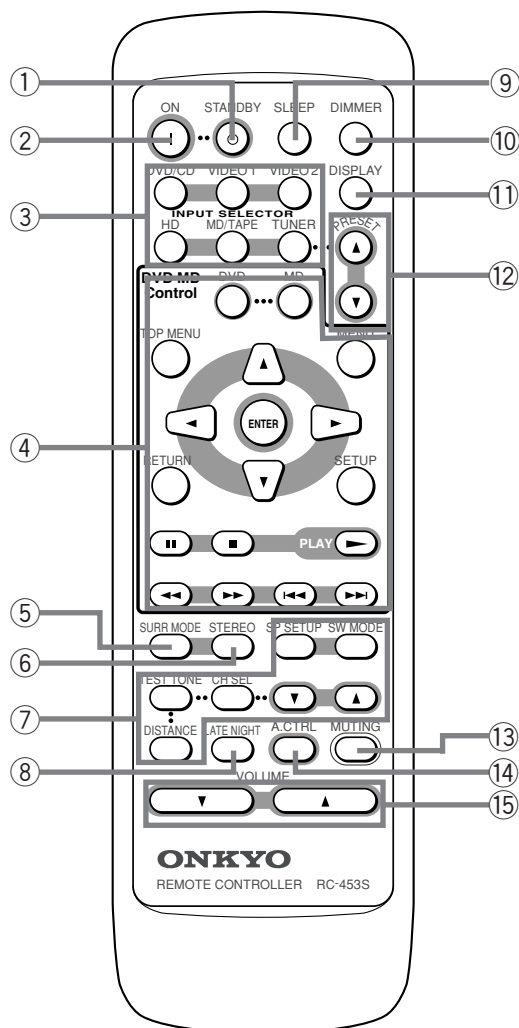
⑤ **TUNED表示［28］**
放送局を受信すると点灯します。

⑥ **FM MUTE表示［28］**
FMミュート状態のときに点灯します。FM MODEボタンを押してモノラルモードにすると消灯します。

⑦ **MEMORY表示［28］**
放送局をプリセットするときに、MEMORYボタンを押すと点灯します。

⑧ **多目的表示部［32］**
通常は入力ソースと音量が表示されます。FM/AMを選択しているときは周波数、プリセット番号が表示されます。DISPLAYボタンを押すとリスニングモードや入力ソースのプログラムフォーマットが表示されます。入力ソースがアナログの場合や、FM/AMを選択しているときはプログラムフォーマットは表示されません。

［　］内のページは、参照ページを示しています。

■ リモコン

各機能の詳細説明は、10ページの「本体前面」を参照してください。

① STANDBYボタン［20］
本機をスタンバイ状態にします。

② ONボタン［20］
本機の電源を入れます。

③ INPUT SELECTORボタン［29、30］
入力ソースを選びます。

④ DVD・MD Controlボタン［31］
操作する機器（DVD/CD／MD/TAPE）を選び、本機にRI接続した他のオンキヨー機器を操作します。

⑤ SURR MODEボタン［36］
サラウンドモードを選びます。

⑥ STEREOボタン［36］
リスニングモードをステレオ音声にします。

⑦ SP SETUP/SW MODE/TEST TONE/CH SEL/DISTANCE/▲/▼ボタン［21-27］
各スピーカーを設定するときに使います。
リモコンのみの機能です。

⑧ LATE NIGHTボタン［38］
LATE NIGHT機能を有効にします。
リモコンのみの機能です。

⑨ SLEEPボタン［33］
スリープ時間を設定します。
リモコンのみの機能です。

⑩ DIMMERボタン［32］
表示部の明るさを調整します。
リモコンのみの機能です。

⑪ DISPLAYボタン［32］
表示部の表示を切り換えます。

⑫ PRESET ▲/▼ボタン［29］
放送局のプリセット番号を選択します。

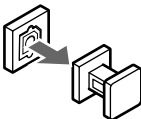
⑬ MUTINGボタン［33］
ミュート機能を有効にします。
リモコンのみの機能です。

⑭ A.CTRLボタン［38］
アコースティックコントロールを切り換え、重低音／高音を強調します。

⑮ VOLUME ▲/▼ボタン［28、30］
音量を調整します。

オーディオ／ビデオ機器を接続する

接続する前に

- 接続する機器の取扱説明書も参照してください。
- 接続するときは、接続するすべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。本機の電源コードはまだ接続しないでください。
- デジタル端子に接続するときは、キャップをはずしてください。デジタル端子を使用しないときは、必ずキャップをはめてください。

- プラグは奥までしっかり接続してください。
- **DVD、VIDEO 1、VIDEO 2端子について**
  Sビデオ端子接続をする場合も通常のビデオ端子接続を必ずしてください。

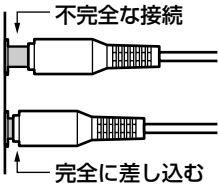
モニター、オーディオ機器の接続例

テレビまたはプロジェクター
(MON OUT)

VIDEO IN　S VIDEO IN

ビデオ
ビデオ用ピンコード（アナログ信号）

S ビデオ端子
S ビデオケーブル（S ビデオ信号）

音声（左）
音声（右）
オーディオ用ピンコード（アナログ信号）

OPTICAL 端子
光デジタルケーブル（デジタル信号）

信号の流れ

お知らせ

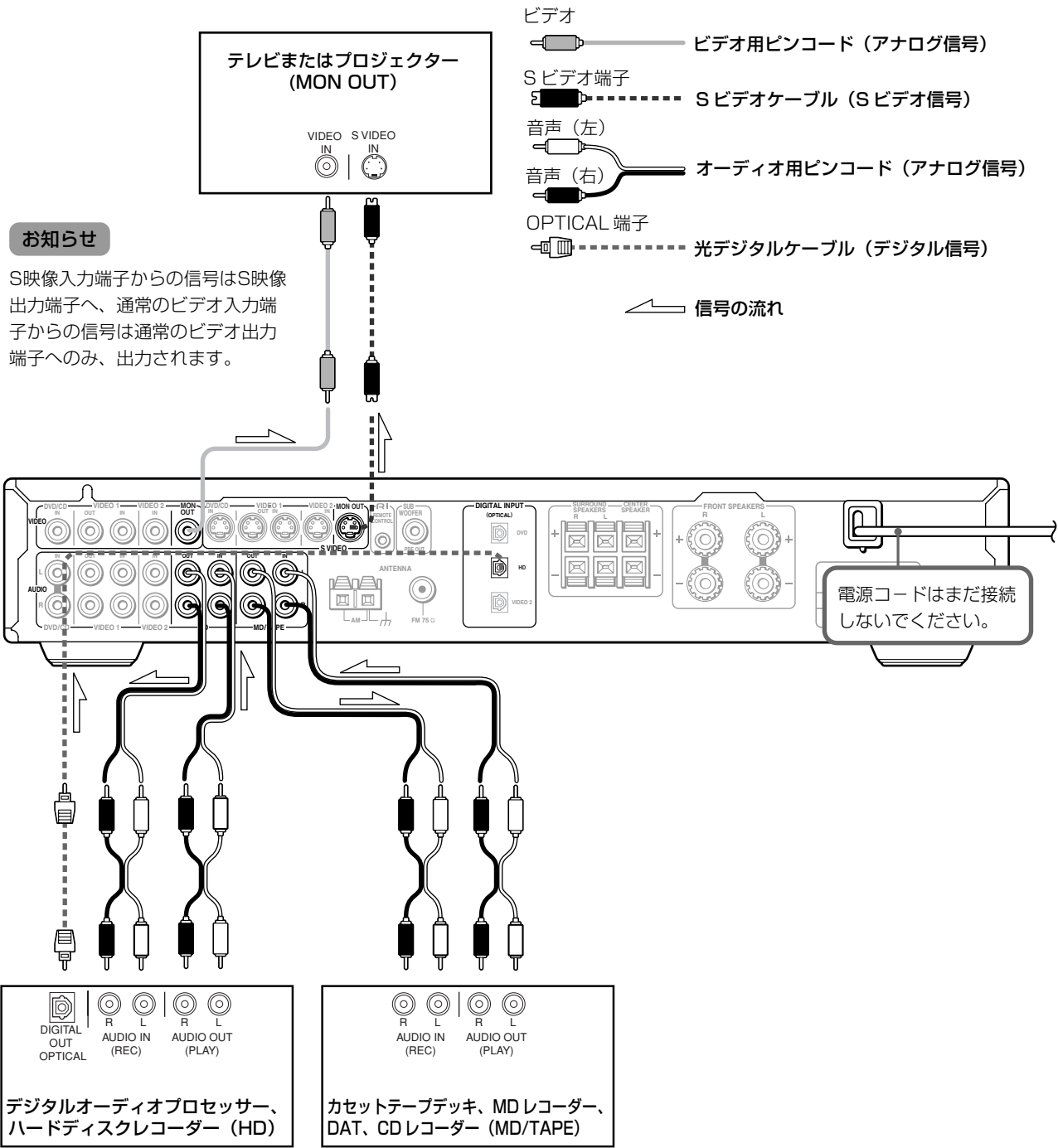
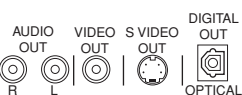
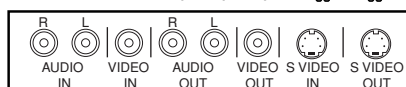
S映像入力端子からの信号はS映像出力端子へ、通常のビデオ入力端子からの信号は通常のビデオ出力端子へのみ、出力されます。

電源コードはまだ接続しないでください。

DIGITAL OUT OPTICAL　R　L AUDIO IN (REC)　R　L AUDIO OUT (PLAY)

デジタルオーディオプロセッサー、ハードディスクレコーダー（HD）

R　L AUDIO IN (REC)　R　L AUDIO OUT (PLAY)

カセットテープデッキ、MD レコーダー、DAT、CD レコーダー（MD/TAPE）

ビデオ機器の接続例
DVD プレーヤー、CD プレーヤー、
または LD プレーヤー＊（DVD/CD）
AUDIO OUT
VIDEO OUT
S VIDEO OUT
DIGITAL OUT
R L
OPTICAL
衛星放送チューナーなど
（VIDEO 2）
AUDIO OUT
VIDEO OUT
S VIDEO OUT
DIGITAL OUT
R L
OPTICAL
＊ AC-3RF出力端子のついているLDプレーヤーを接続する場合は、AC-3RFデモジュレーターを通してデジタル入力端子に接続してください。
電源コードはまだ接続しないでください。
ビデオ
音声（左）
音声（右）
オーディオ・ビデオ用ピンコード（アナログ信号）
S ビデオ端子
S ビデオケーブル（S ビデオ信号）
OPTICAL 端子
光デジタルケーブル（デジタル信号）
信号の流れ
R L R L
AUDIO IN
VIDEO IN
AUDIO OUT
VIDEO OUT
S VIDEO IN
S VIDEO OUT
ビデオデッキ（VIDEO 1）

スピーカーを配置する

フロントの左、センター、右スピーカー、サラウンドの左右スピーカー、サブウーファーが接続でき、マルチチャンネル再生ができます。

■ 標準的なスピーカー配置

サラウンド音声を再生するには、スピーカーを正しく配置することが必要です。
スピーカーの配置は、部屋の大きさや壁の材質などによっても変わってきますが、ここでは標準的なスピーカー配置を紹介します。以下を参考にしてサラウンド音声を最大限に生かしてください。

右の図のように、すべてのスピーカーを接続すると最も理想的なサラウンド効果を得ることができます。
しかし、センタースピーカーやサブウーファーがないときは、センタースピーカーやサブウーファーから出力される音声を他のスピーカーに最適に配分し、現在のスピーカー構成で可能なサラウンド効果を最大限に引き出します。

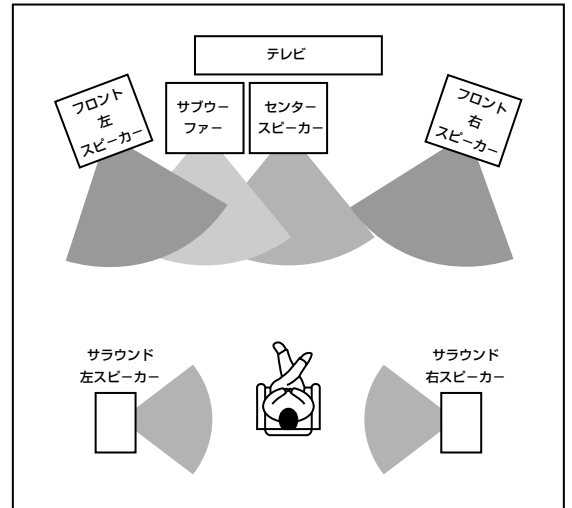
フロントスピーカーについて
フロントスピーカーのうち、センタースピーカーは音源効果や、音の動きを高め、より豊かなサウンドイメージを再現します。

- 左右スピーカーとセンターの3つのスピーカーを音楽や映画を鑑賞する人（リスナー）に向けて配置します。
- 高さはリスナーの耳の位置に調節します。

サラウンドスピーカーについて
サラウンドスピーカーは音の立体的な動きを表現し、あたかもその場にいるかのような臨場感を高めます。

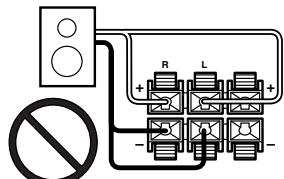
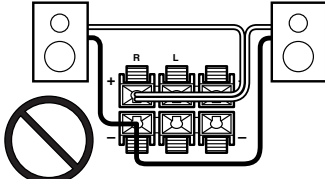
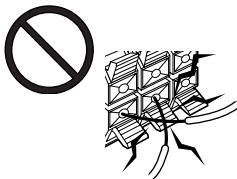
- 左右のサラウンドスピーカーが左右から向き合うようにし、リスナーがサラウンドスピーカーからの音の広がりの範囲内に入るように設置します。
- 高さは、リスナーの耳の位置より1メートル高くなるように調節します。

サブウーファーについて
アンプ内蔵のサブウーファーを使用してください。力強い重低音を再現します。
サブウーファーはどこに配置しても音響効果にはさほど影響を与えません。置きやすい場所に設置してください。

スピーカーの取扱説明書も同時に参照し、最も効果のあるサラウンド音声をお楽しみください。

スピーカーを接続する

接続する前に

- 接続するスピーカーの取扱説明書も参照してください。
- プラス（＋）とマイナス（－）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。
- スピーカーはインピーダンスが6Ω～ 16Ωのものを接続してください。6Ω未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。
- 回路の故障を防ぐため、スピーカーコードの芯線を絶対にショートさせないでください。

- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

スピーカーの接続

FRONT SPEAKERS端子への接続のしかた

15mm

スピーカーコードの先のビニール（絶縁体）部分を、芯線を残して15mmはがし、露出した芯線をよじる。

スピーカー端子をゆるめる

スピーカーコードのしん線を奥まで差し込む

スピーカー端子を締め付けスピーカーコードを固定する

SURROUND SPEAKERS、CENTER SPEAKER 端子への接続のしかた

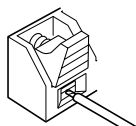
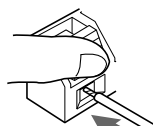
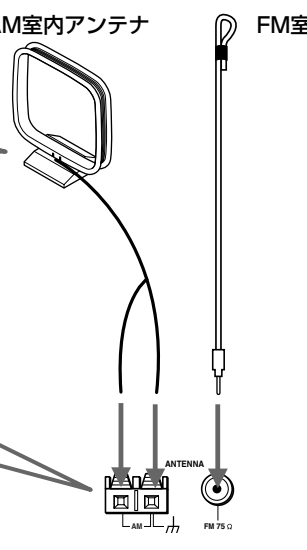
10mm

スピーカーコードの先のビニール（絶縁体）部分を、芯線を残して10mmはがし、露出した芯線をよじる。

つまみを押して広げる。

スピーカーコードの先を差し込む。指を離すとつまみが元の位置に戻ります。

FM ／ AM アンテナを接続する

付属のFM／AM室内アンテナを接続する

■ FM室内アンテナの位置を調整する

FM放送を聞きながら(☞28ページ)、調整してください。
アンテナ線をぴんと張りながらいろいろな方向に動かし、最も受信状態がよい位置で、押しピンなどを使って固定します。

■ AM室内アンテナの位置を調整する

AM放送を聞きながら(☞28ページ)、調整してください。
AM室内アンテナをいろいろな方向に向けたり、位置を動かしてみて、最も受信状態がよい位置に置きます。
本機、テレビ、スピーカーコード、電源コードなどからできるだけ離して設置してください。

お知らせ

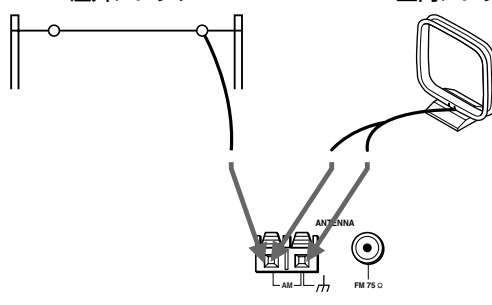
AMアンテナのコードは、分岐した先端を左右端子のどちらに接続してもかまいません。（スピーカーコードのように極性などによる区別はありません。）

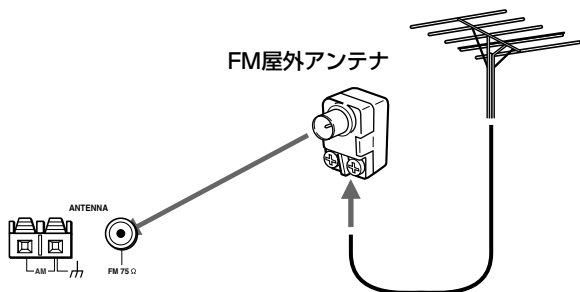
AM屋外アンテナを接続する

鉄筋住宅などでAM室内アンテナだけでは受信状態が悪いときは、5m以上のビニール被覆線を窓際や屋外に張ってください。

接続は右図のようにしてください。AM外部アンテナを接続する場合は、AM室内アンテナも同時に接続します。

ご注意

落雷や感電による事故を防ぐため、アースは必ず接続してください。

FM屋外アンテナを接続する

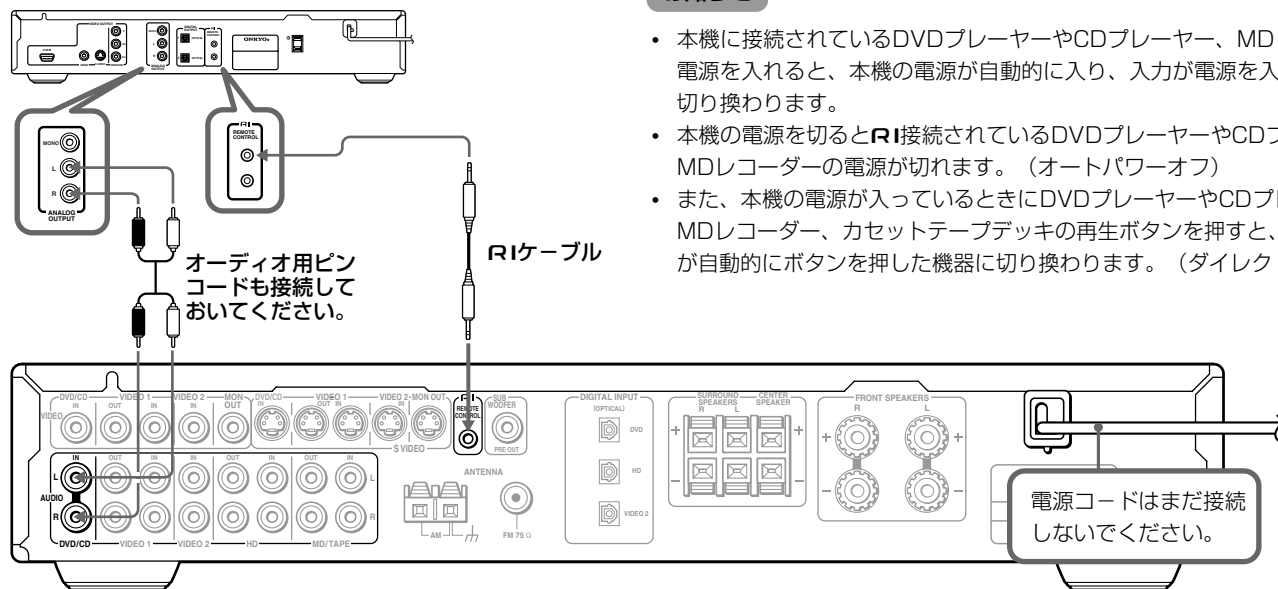
FM屋外アンテナの位置を調整しても受信状態が悪いときは、FM屋外アンテナを外してFM屋外アンテナを接続してください。

ご注意

- 建物の陰にならず、FM放送電波が直接受信できるところに設置してください。
- ネオンや交通の激しい道路などのノイズの発生源から離して設置してください。
- 送電線の近くは危険ですので、絶対に設置しないでください。
- 落雷や感電による事故を防ぐため、アースは必ず接続してください。
- アンテナ工事は技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

オンキヨー製のAV機器を本機のリモコンで操作するための接続〈RI端子接続〉

RI端子接続をしておくと、付属のリモコンで次のAV機器を操作することができます。（☞31ページ）

- RI端子付きのオンキヨー製のDVDプレーヤーやCDプレーヤー、MDレコーダー、カセットテープデッキ

RI端子接続にはRIケーブルが必要です。また、RIケーブルで接続した場合も、ピンコードの接続は必ず行ってください。（☞14、15ページ）
RIケーブルは、DVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダーやカセットテープデッキに付属されています。

お知らせ

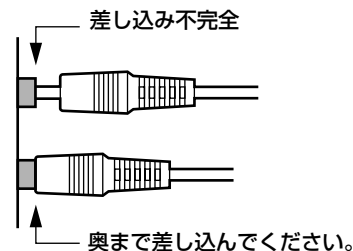
- 本機に接続されているDVDプレーヤーやCDプレーヤー、MDレコーダーの電源を入れると、本機の電源が自動的に入り、入力が電源を入れた機器に切り換わります。
- 本機の電源を切るとRI接続されているDVDプレーヤーやCDプレーヤー、MDレコーダーの電源が切れます。（オートパワーオフ）
- また、本機の電源が入っているときにDVDプレーヤーやCDプレーヤー、MDレコーダー、カセットテープデッキの再生ボタンを押すと、本機の入力が自動的にボタンを押した機器に切り換わります。（ダイレクトチェンジ）

- カセットテープデッキは、本機のMD/TAPE端子に接続してください。
  またその場合は、本機の入力をMDからTAPEに切り換えてください。(☞31ページ),
- CDプレーヤーは、本機のDVD/CD端子に接続してください。
  またその場合は、本機の入力をDVDからCDに切り換えてください。(☞31ページ)

お願い

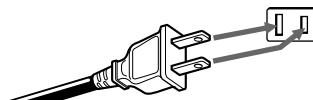
- プラグは奥までしっかり接続してください。
- 必ずRIマークのついた端子に接続してください。
- 本機のRI端子は、オンキヨー製品以外の機器とは接続しないでください。故障の原因になります。

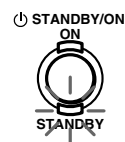
ご注意

- RI端子付きのオンキヨー製MDレコーダー、CDレコーダーおよびカセットテープデッキは、両方同時にRI端子接続しないでください。誤動作することがあります。
- 一部の機器ではシステム動作しないことがあります。

本機の電源をつなぎ、電源を入れる

接続する前に

- 14～19ページの接続がすべて終了しているか確認してください。
- 本機の電源を入れると瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響を与えることがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントにつなぐようにしてください。

1 電源コードを壁のコンセントにつなぐ

2 ⊙ POWERスイッチを押して主電源を入れる

本機がスタンバイ状態になり、STANDBYインジケーターが赤く点灯します。

お知らせ

- 工場出荷時は、主電源はオン（ON）になっています。
- 主電源をオフ（OFF）にするには、POWERスイッチをもう一度押します。
- 主電源がオフになっていると、リモコンボタンは働きません。

3 本体の ⏻ STANDBY/ON か、リモコンのONを押して、電源を入れる

電源が入り、ONインジケーターがオレンジ色に点灯します。スタンバイインジケーターは消灯します。

お知らせ

- オンキヨー製のDVDプレーヤーやCDプレーヤー、MDレコーダー、カセットテープデッキをRI端子接続（前ページ参照）しているときは、本機がオンのときにリモコンのONボタンを押すとそれらの機器の電源をオンにすることができます。
- 本機の電源を切り、スタンバイ状態にするには、本体のSTANDBY/ONまたは、リモコンのSTANDBYを押します。
  次回使用時のために、音量を最小にしてから、電源を切ってください。

お知らせ

電源コードはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。電源コードの白線マークの方を家庭用電源コンセントの溝の広い方に広いほうに合わせて差し込んでください。

接続したスピーカーの設定をする

マルチチャンネル再生を楽しむには、スピーカーの構成や、視聴位置までの距離、音量バランスの調整をする必要があります。ここでは、17ページで接続したスピーカーの設定をします。

スピーカー構成や配置を変えない限り、通常は設定を繰り返す必要はありません。

お知らせ

ヘッドフォンを接続しているとき（☞33ページ）は設定できません。

■ 接続しているスピーカーがすべてオンキヨー製の場合

「オンキヨー製のスピーカーを接続している場合」（☞22ページ）を行ってください。スマートコンフィグと視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定するだけで、スピーカーの構成や音量バランスの調整などは自動的に行われます。

接続しているスピーカーを認識番号表（☞22ページ）で確認し、前もって視聴位置からスピーカーまでの距離を測っておきます。

■ 接続しているスピーカーがオンキヨー製でない場合

接続しているスピーカーがオンキヨー製でない場合や混在する場合、あるいはオンキヨー製のスピーカーを接続している場合でも、より正確に設定したい場合などは、「オンキヨー製以外のスピーカーを接続している場合」（☞26ページ）を行ってください。

前もって視聴位置からスピーカーまでの距離を測っておきます。

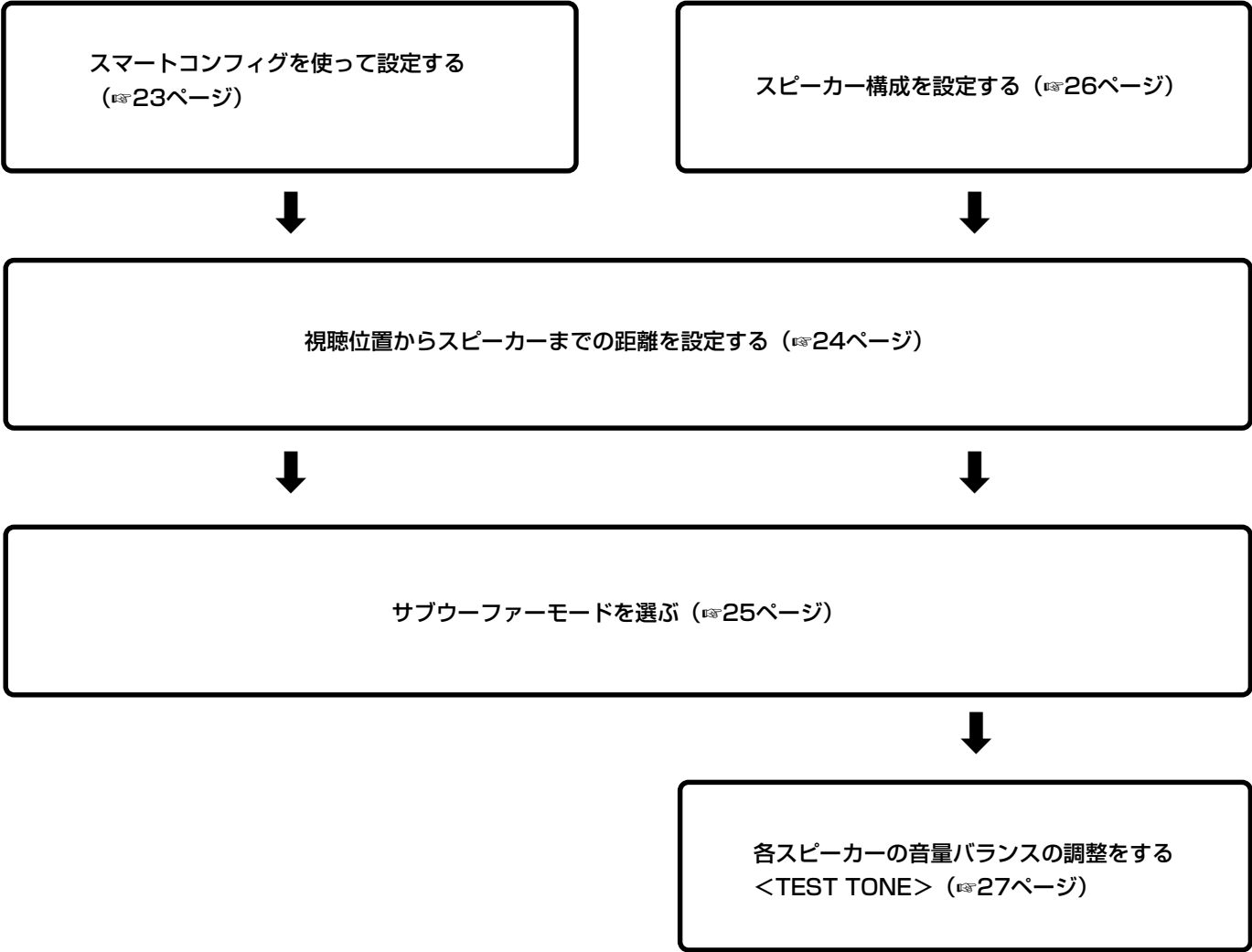
スマートコンフィグを使って設定する（☞23ページ）

スピーカー構成を設定する（☞26ページ）

⬇

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定する（☞24ページ）

サブウーファーモードを選ぶ（☞25ページ）

各スピーカーの音量バランスの調整をする
<TEST TONE>（☞27ページ）

接続したスピーカーの設定をする

オンキヨー製のスピーカーを接続している場合

■ オンキヨー製スピーカーと認識番号表

各スピーカーの型番の左にある数字が、「スマートコンフィグを使って設定する」の手順で使用する認識番号です。
手順中、接続していないスピーカーについては「0」を、接続しているスピーカーがオンキヨー製以外の場合は「9」を、選びます。フロント左右スピーカーは、必ず接続していなくてはなりません。

フロント左右		センター		サラウンド左右		サブウーファー	
		0	接続していない場合	0	接続していない場合	0	接続していない場合
1	HTP-L5/D-L5/D-602F/D-40	1	D-L5/D-40	1	D-L5/D-40	1	SL-105
2	D-105F	2	D-105C	2	D-105M	2	SL-307/SKW-205※
3	D-307F/D-507F	3	D-307C/D-507C/SKC-301/305	3	D-307M/D-507M	3	SL-507※
4	D-30	4	D-30	4	D-30	4	SKW-305※
5	D-80	5	D-80	5	D-80	5	SKW-310※
6	D-205F	6	D-30C	6	SKR-301/305	6	SKW-320※
7	D-305F	7	D-305C	7	D-305SR	7	SL-7
8	D-605F/D-77MRX/D-202AX/LTD	8	D-605C	8	D-605SR	8	SL-10
9	上記以外のオンキヨー製品	9	上記以外のオンキヨー製品	9	上記以外のオンキヨー製品	9	上記以外のオンキヨー製品

2001年6月現在

※ サブウーファーにMOVIE(ムービー)／MUSIC(ミュージック)の設定がありますが、「MUSIC」にしてください。

お知らせ

上記の日付以降に新しく発売されたスピーカーをお持ちの場合は、43ページ「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」に記載の「カスタマーセンター」へお問い合わせください。

■ スマートコンフィグを使って設定する

1 SP SETUP

SP SETUPを押す

2 CH SEL

3秒以内にCH SELを押す

本体の表示部に『SMART CFG <9999>』が表示されます。

各『9』は、前ページの表中に記載されたスピーカー認識番号を入力するためのフィールドです。
初期値は9になっています。2回目以降に設定するときは、以前に設定した値が入っています。

3 CH SEL

もう一度CH SELを押す

フロントスピーカーを入力するためのフィールドが点滅します。

4

リモコンの▲/▼を押して、スピーカーの認識番号を選ぶ

FRONT <9999>

お知らせ

- スピーカーを接続していない入力フィールドでは、『0』を選んでください。ただし、フロント左右スピーカーは必ず接続することが前提ですので、『0』は選べません。
- 表に記載されていないスピーカーを接続している入力フィールドでは、『9』を選んでください。

5 CH SEL

CH SELを押して、次のフィールドを選ぶ

選んだあとは、サブウーファーの設定が終わるまで、手順**2**と**3**を繰り返します。

SUBWOOFER <3333>

サブウーファーの指定が終わり、CH SELを押すと、フロントスピーカーのフィールドに戻ります。

6 SP SETUP

SP SETUPを押す

設定した番号が確定され、通常表示に戻ります。

ご注意

SP SETUP以外のボタンで終了したときは、設定した値は記憶されていません。

お知らせ

『9』を設定したフィールドのスピーカーについては、音量バランスを調整してください。（☞27ページ）

オンキヨー製のスピーカーを接続している場合（つづき）

視聴位置から、各スピーカーまでの距離を、あらかじめ測っておきます。
設定するときは、実測値に最も近い値を選んでください。

左右にあるスピーカーは、片方の距離を測ってください。
（左右スピーカーは、視聴位置から等距離とします。）

■ 視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定する

1

DISTANCE（ディスタンス）を押す

本体の表示部に、左右フロントスピーカーの設定表示があらわれます。

FRONT =3.6m/12ft

2

▲/▼を押して、左右フロントスピーカーの距離を選ぶ

最短0.3mから最長9mまで設定できます。

FRONT =4.2m/14ft

3

CH SELを押し、▲/▼を押して、センタースピーカーの距離を選ぶ

CENTER =3.3m/11ft

お知らせ

- センタースピーカーを含まないスピーカー構成を設定をしている場合は、この設定はありません。
- 次のような数値は入力できません。
  - 左右フロントスピーカーの距離より長い値
  - 左右フロントスピーカーの距離から1.5m引いた値より短い距離

4

CH SELを押し、リモコンの▲/▼を押して、サラウンドスピーカーの距離を選ぶ

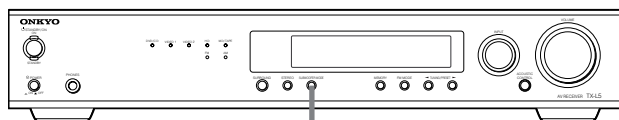
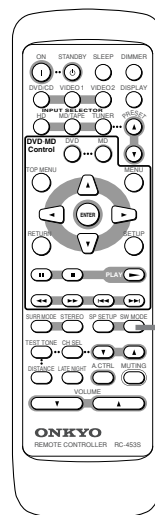
SURR =3.3m/11ft

お知らせ

- サラウンドスピーカーを含まないスピーカー構成を設定をしている場合は、この設定はありません。
- 次のような数値は入力できません。
  - 左右フロントスピーカーの距離より長い値
  - 左右フロントスピーカーの距離から4.5m引いた値より短い距離

5

DISTANCEを押す

設定が終わり、通常表示に戻ります。

■ サブウーファーモードを選ぶ

23ページ、26ページでサブウーファーのある設定をしたときに使います。

本体のSUBWOOFER MODE、または、リモコンのSW MODEを（繰り返し）押して、サブウーファーモードを選ぶ

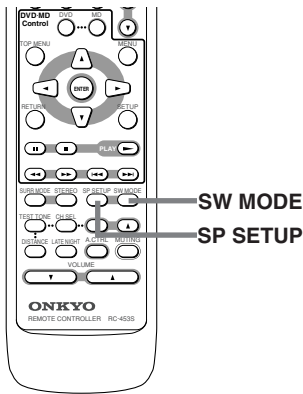
SUBWOOFER MODE 1

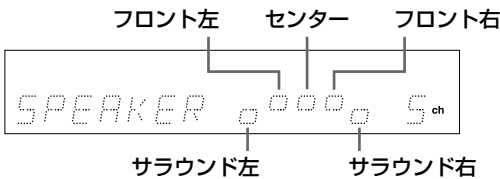
SUBWOOFER MODEを1度だけ押すと、現在の設定を確認するとこができます。さらにSUBWOOFER MODEを押していくと、サブウーファーモードを変更することができます。

- 『SUBWOOFER OFF』
  サブウーファーを接続していても、使用しないとき
- 『SUBWOOFER MODE1』
  サブウーファーの音を大きくしたいとき
- 『SUBWOOFER MODE2』
  サブウーファーの音を小さくしたいとき

3秒経過すると、通常表示に戻ります。

接続したスピーカーの設定をする

オンキヨー製以外のスピーカーを接続している場合

■ スピーカー構成を設定する

SP SETUPを3秒以内に繰り返し押して、スピーカー構成を選ぶ

表示とスピーカー構成の内容

3秒経過すると、通常表示に戻ります。

お知らせ

- 現在のリスニングモードが選択できないスピーカー構成を設定した場合、自動的にリスニングモードが変化します。
- 表示部が通常表示のときに、現在設定されているスピーカー構成を確認するときは、SP SETUPを1度だけ押します。
  現在のスピーカー構成が表示されている間にSP SETUPをさらに押すと、スピーカー構成を変更することができます。

■ 視聴位置からスピーカーまでの距離を設定する

左の項で設定したスピーカー構成の距離を設定します。
設定方法は24ページのやり方と同じですので、そちらをご覧ください。

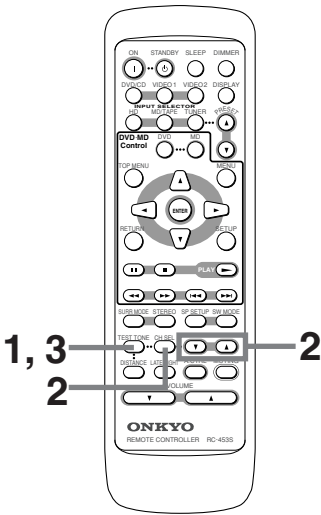
■ サブウーファーモードを選ぶ

サブウーファーを接続しているときに、フロントスピーカーのサイズにあわせてサブウーファーモードを選びます。
設定方法は25ページのやり方と同じですのでそちらをご覧ください。

すべてのスピーカーの音が、視聴位置から同じ大きさに聞こえるように調整していきます。

お知らせ

MUTING中は調整ができません。

■ 各スピーカーの音量バランスの調整をする〈Test Tone（テストトーン）〉

1 TEST TONE

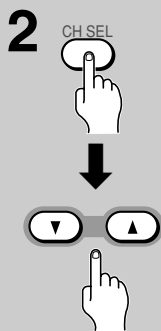
TEST TONE（テストトーン）を押す

左フロントスピーカーからテストトーンが出力されるので、音量をいつも聞いている大きさにします。
次の順序で各スピーカーが表示部に表示され、表示されたスピーカーからテストトーンが出力されます。

LEFT (左フロント)	→	CENTER (センター)
↑		↓
SUBWOOFER (サブウーファー)		RIGHT (右フロント)
↑		↓
SURR LEFT (左サラウンド)	←	SURR RIGHT (右サラウンド)

LEFT 0 dB

お知らせ

- 設定したスピーカー構成にないスピーカーからは（実際は接続していても）、テストトーンは出力されません。
- サブウーファーを接続していても、サブウーファーを「SUBWOOFER OFF」にしているとテストトーンは出力されません。

2 CH SEL

CH SEL（チャンネル セレクト）を（繰り返し）押してスピーカーを選び、リモコンの▲/▼を押して、音量を調整する

音量レベルは－12dB～+12dBの間で調整できます。

3 TEST TONE

調整が終わったら、TEST TONEを押す

テストトーンが止まり、表示部は通常表示に戻ります。

お知らせ

TEST TONEを押さなくても、2分たつと、テストトーンは解除されます。

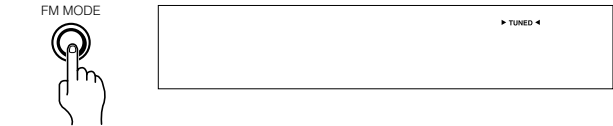
FM ／ AM 放送を聞く

FM／AM放送を聞くには、手動でチューニングする方法と、放送局をプリセットして選局する、2つの方法があります。

電波が弱くてFM放送局を受信できないときは

FM放送を受信すると、FM STEREOインジケーターが表示部に点灯します。しかし電波が弱いと放送局を受信できません。

このときは、FM MODEを押してください。

FM MUTEインジケーターが消え、モノラル受信となります。この状態で放送局を選んでください。（このときは、放送局間のノイズも聞こえます。）

手動でチューニングする

1 INPUTつまみを回して、FMまたはAMを選ぶ

例：FMを選んだとき

FM 87.5 MHZ -- ch

2 本体のVOLUMEつまみを回して、音量を調節する

3 TUNING PRESET ◄/►を1.5秒以上押す

TUNING/PRESET

放送局を受信すると、点灯します。

- FMの場合、自動的に放送局の検索を始め、放送を受信すると自動的に止まり、周波数が点滅します。
- AMの場合は9kHz単位で周波数が変わります。ボタンを離すと止まり、周波数が点滅します。

お知らせ

TUNING/PRESET ◄/►を押す時間が短いと、プリセット局を選ぶモードになります。「プリセットした放送局を選ぶ」（☞29ページ）を参照してください。

4 周波数が点滅している間（約3秒）に、TUNING PRESET ◄/►を押して周波数を変える

TUNING PRESET ◄/►を押すたびに周波数を1ステップずつ変えることができます。

放送局をプリセットする

AM／FMあわせて30局まで登録できます。

1 プリセットしたい放送局を左記の「手動でチューニングする」の手順で選ぶ

2 MEMORYを押す

MEMORY

MEMORYインジケーターが点灯し、プリセット番号が点滅します。

FM 88.10MHZ MEMORY ch

3 MEMORYインジケーターが点灯している間（約8秒）に、TUNING/PRESET ◄/►を押して、放送局をプリセットする番号を選ぶ

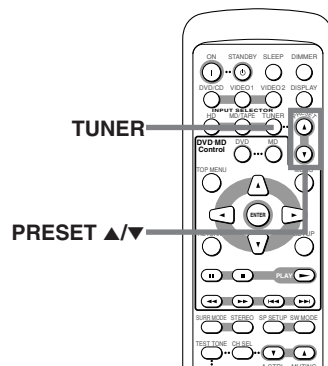
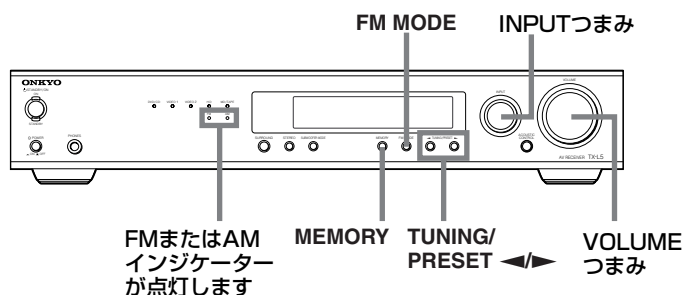
TUNING/PRESET

FM 88.10MHZ MEMORY ch

4 MEMORYを押す

MEMORY

指定した番号に放送局がプリセットされます。

プリセットを続けるには、手順**1**～**4**を繰り返します。

TUNER

PRESET ▲/▼

プリセットした放送局を選ぶ

事前に放送局をプリセットしておく必要があります。

リモコンのTUNERを押すか、本体のINPUTつまみを回して、FMまたはAMを選ぶ

FM、AMのどちらを選んでもかまいません。

FM 87.5 MHZ --ch

リモコンのPRESET ▲/▼、または本体のTUNING/PRESET ◄/►を押して、プリセット番号を選ぶ

FM 88.1 MHZ 3ch

お知らせ

TUNING/PRESET ◄/►を1.5秒以上押した場合、本機は手動受信モードになります。「手動でチューニングする」（☞28ページ）を参照してください。

お知らせ

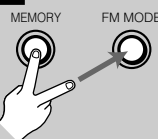
プリセットした放送局がFMだけ、あるいはAMだけのときにもう一方のバンド(FM/AM)に切り換えようとした場合、リモコンのTUNERボタンでは切り換えられません。本体のINPUTつまみでFMまたはAMを選んでください。

プリセットした放送局を削除する

1

放送局を削除したいプリセット番号を左欄の手順で選ぶ

FM 88.1 MHZ 3ch

2

MEMORY　FM MODE

MEMORYを押しながらFM MODEを押す

FM 88.1 MHZ --ch

選んだプリセット番号の放送局が削除されます。

AM／FM放送を聞きながら使ういろいろな機能

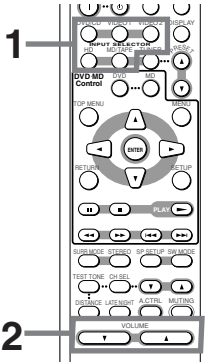
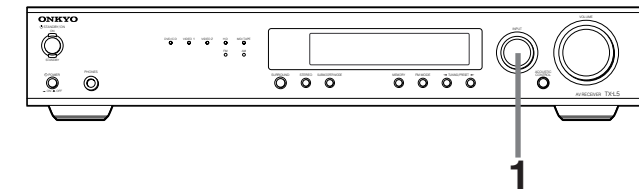
以下の機能が使えます。32ページを参照してください。

- 表示部の表示内容を変える
- 表示部の明るさを暗くする
- 音声を一時的に小さくする〈ミュート機能〉
- ヘッドホンで聞く
- スリープタイマーを使う

いろいろな音声効果を楽しむ

34ページを参照してください。

接続した外部機器を再生する

必要に応じて「オーディオ／ビデオ機器を接続する」（☞14ページ）も参照してください。

1 リモコン

リモコンのINPUT SELECTORの各ボタンを押すか、本体のINPUTつまみを回して、以下の入力を選ぶ

- DVD/CD
- VIDEO 1
- VIDEO 2
- HD
- MD/TAPE

例：VIDEO 1を選んだときの表示部

例：VIDEO 1を選んだときの入力インジケーター

DVD/CD　VIDEO 1　VIDEO 2　HD　MD/TAPE　FM　AM

2 リモコン

リモコンのVOLUME ▲/▼を押すか、本体のVOLUMEつまみを回して、音量を調節する

3

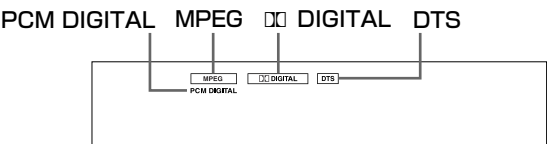
選んだ入力に接続している外部機器の再生を始める

■ デジタル音声について

デジタル端子に接続している機器からのデジタル音声は、自動的にアナログ音声から切り換わって処理されます。

- 入力をDVDにすると、DIGITAL INPUT（OPTICAL）DVD端子からのデジタル音声が再生されます。
- 入力をVIDEO 2にすると、DIGITAL INPUT（OPTICAL）VIDEO 2端子からのデジタル音声が再生されます。
- 入力をHDにすると、DIGITAL INPUT（OPTICAL）HD端子からのデジタル音声が再生されます。

デジタル音声を認識すると、その音声方式によって、PCM DIGITAL、MPEG、DD DIGITAL、DTSのいずれかのインジケーターが表示部に点灯します。

PCM DIGITAL　MPEG　DD DIGITAL　DTS

お知らせ

外部機器からのデジタル信号は、PCM、DOLBY DIGITAL（ドルビーデジタル）、DTS（ディーティーエス）、MPEG2 AACのみ再生できます。

■ DVD、VIDEO 1、VIDEO 2の映像を鑑賞しながら、接続した外部機器の音声や、FM／AM放送を楽しむ

DVDまたはVIDEO 1、VIDEO 2に接続したAV機器を再生し、MD/TAPE、HD、または、FM、AMのいずれかの入力を選ぶと、DVDまたはVIDEO 1、VIDEO 2の映像と、選んだ入力の音声を同時に鑑賞することができます。

音楽／映画を鑑賞しながら使ういろいろな機能

以下の機能が使えます。32ページを参照してください。

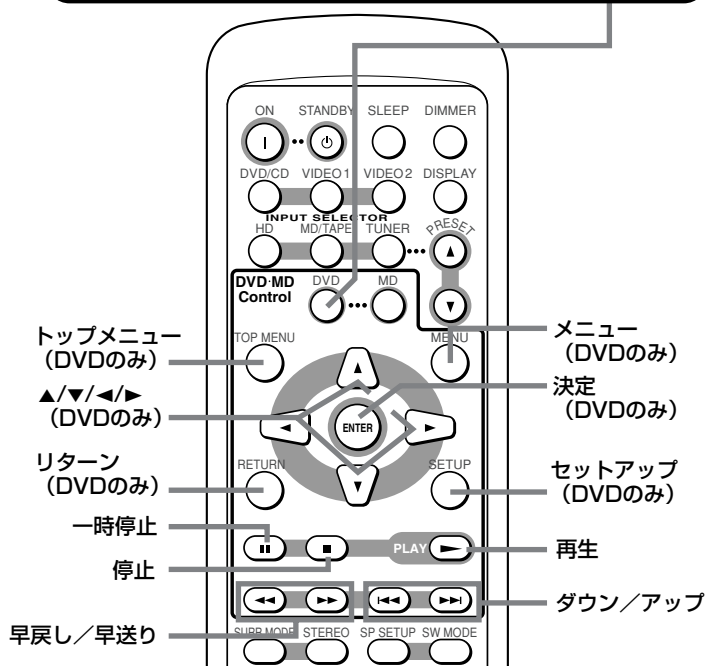
- 表示部の表示内容を変える
- 表示部の明るさを暗くする
- 音声を一時的に小さくする〈ミュート機能〉
- ヘッドフォンで聞く
- スリープタイマーを使う

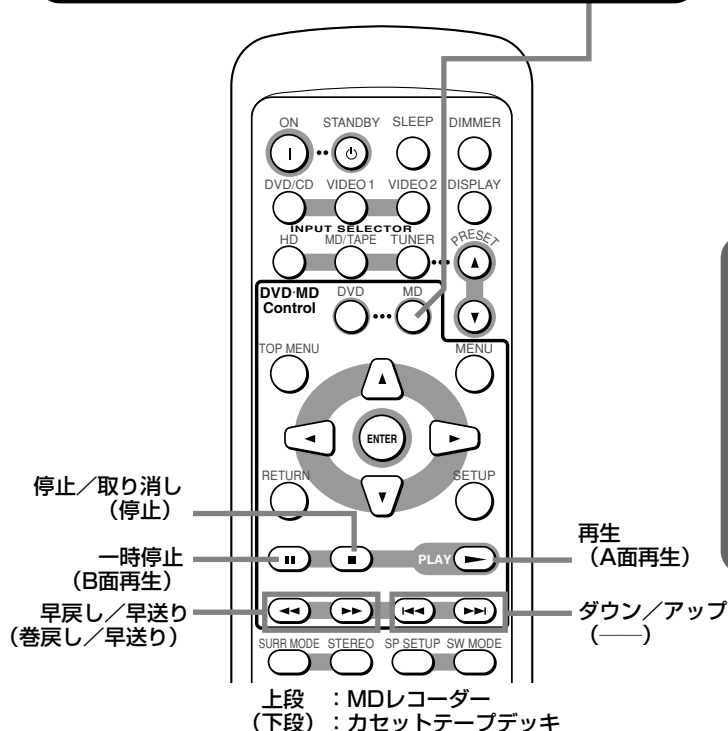
いろいろな音声効果を楽しむ

34ページを参照してください。

付属のリモコンでオンキヨー製DVDプレーヤー／CDプレーヤーやオンキヨー製MDレコーダー／カセットテープデッキを操作する

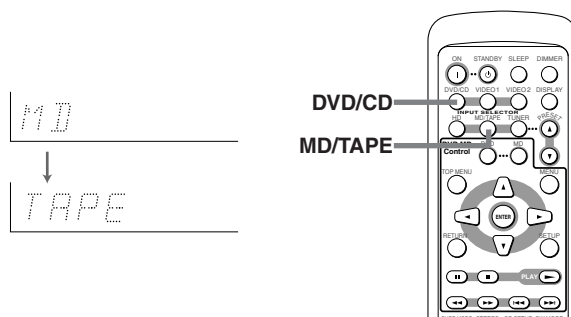
■ オンキヨー製DVDプレーヤーもしくはオンキヨー製CDプレーヤーを操作する

RI接続が必要です（☞19ページ）。
DVD/CD端子にCDプレーヤーを接続している場合は、先に下記の項の手順にしたがって表示部の入力表示を切り換えてください。
操作するときは、リモコンを本機に向けます。

■ オンキヨー製MDレコーダーもしくはオンキヨー製カセットテープデッキを操作する

RI端子接続が必要です（☞19ページ）。
MD/TAPE端子にカセットテープデッキを接続している場合は、先に下記の項の手順にしたがって表示部の入力表示を切り換えてください。
操作するときは、リモコンを本機に向けます。

■ 表示部の入力表示をMDからTAPEに切り換える／DVDからCDに切り換える

本機のMD/TAPE端子にカセットテープデッキが接続されている場合、リモコンのINPUT SELECTORまたは本機のINPUTつまみでMD/TAPEを選んだときに、TAPEと表示させることができます。同様に、本機のDVD/CD端子にCDプレーヤーが接続されている場合も、DVD/CDを選んだときにCDと表示させることができます。表示を変えることによって、オンキヨー製のカセットテープデッキやCDプレーヤーをRI接続している場合は、RIシステム操作が可能になります。

表示を変えるには（MDからTAPEに変える場合）

1 リモコンのINPUT SELECTORのMD/TAPEボタンを押して、入力を切り換えます。
2 MD/TAPEボタンを、MD表示がTAPEに切り換わるまで（約2秒間）押し続けます。

表示を元に戻すには、同じ操作をします。
この設定は、接続したオンキヨー製のカセットテープデッキやMDレコーダー、DVDプレーヤーやCDプレーヤーのRIシステム機能を有効にするために必要です。

すべての入力に共通したいろいろな機能

表示部の表示内容を変える

リモコンのみ

DISPLAY(ディスプレイ)を押す

押すたびに、表示内容が以下のように切り換わります。

FM、AM 以外の入力ソースを選択しているとき：

DISPLAY ボタンを 1 回押すとフォーマット表示になります。この状態からもう 1 度押すと他方の表示になります。

* 入力信号にプログラムフォーマットがないときは表示されません。フォーマット表示状態で約 5 秒経過すると、もとの表示に戻ります（···▶）。

FM、AM を選択しているとき：

表示部の明るさを暗くする

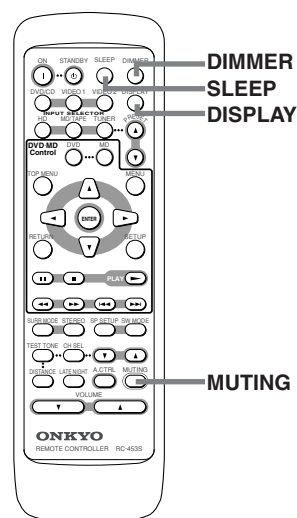
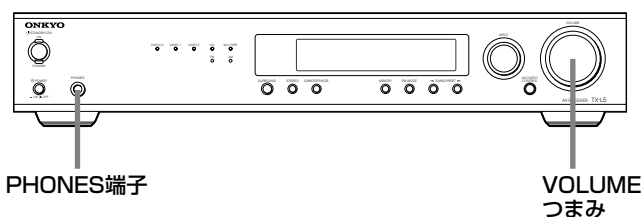
リモコンのみ

DIMMER(ディマー)を押す

押すたびに、以下のように明るさが変わります。

1. 表示部がやや暗くなる。
   ↓
2. 表示部が暗くなる。
   ↓
3. 表示部が暗くなった状態でさらに**フロントパネルのON以外のインジケーターが消えます**（☞31ページ）。
   ↓
4. 表示部が明るくなり、**消灯していたインジケーター**も点灯します。

お知らせ

当社のDV-L5、MD-2000をRI接続している場合、これらの機器の表示部も連動して明るさが変わります。

音声を一時的に小さくする〈ミュート機能〉

リモコンのみ

MUTING(ミューティング)を押す

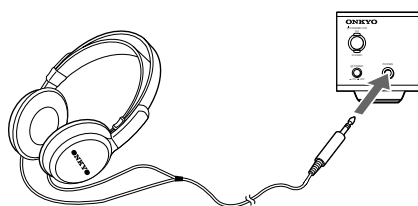
ミュート機能が働いている間は、MUTINGインジケーターが表示部で点滅します。

MUTINGをもう一度押すと、元の音量に戻ります。

お知らせ

本機をスタンバイ状態にするとミュート機能は解除されます。

ヘッドホンで聞く

ヘッドホンを本体のPHONES(ホーン)端子に接続する

お知らせ

- ヘッドホンを接続すると、スピーカーからは音声は出力されません。
- 音声は自動的にステレオ音声になります。（リスニングモードが『STEREO』になります。☞36ページ）
  ヘッドホンを抜くと、接続前のリスニングモードに戻ります。

スリープタイマーを使う

リモコンのみ

SLEEP(スリープ)を押す

『SLEEP 90MIN』が多目的表示部に約5秒間あらわれ、SLEEPインジケーターが表示部に点灯します。

90分後に電源が切れてスタンバイになります。

SLEEPインジケーター

SLEEPを押すごとに、電源の切れる残り時間が10分ずつ少なくなります。

■ スリープタイマーの残り時間を確認する

スリープタイマーをセットした後で、SLEEPを押す

残り時間が表示されます。

残り時間表示中にSLEEPを押すと、押す度に、電源の切れる残り時間が10分ずつ少なくなります。

■ スリープタイマーをキャンセルする

SLEEPインジケーターが消えるまで、SLEEPを繰り返し押す

いろいろな音声効果を楽しむ

本機のサラウンド音声によってお部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。サラウンド音声をお楽しみいただくためにはスピーカー構成が重要な役割を果たします。（☞16ページ「スピーカーを配置する」）

サラウンドモードについて

■ DOLBY（ドルビー） DIGITAL（デジタル）サラウンドとDTS（ディーティーエス） (Digital（デジタル） Theater（シアター） System（システム）)サラウンドとMPEG-2（エムペグ） AAC（エーエーシー）サラウンド

フルレンジ（20Hz～20kHz）の5チャンネル（左右フロント、センター、サラウンド2チャンネル）と、低域効果音を記録したLFE（Low Frequency Effect）チャンネルを、それぞれ混ぜ合わせることなく独立して記録・再生する5.1チャンネルのデジタル・サラウンド・フォーマットです。
データの転送レートなどに違いはあるものの、いずれのフォーマットでも、ご家庭でも簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをご体験いただけます。
DOLBY DIGITALは、DOLBY DIGITALマークのついたDVDビデオなどの再生時に楽しむことができます。DTSはdts DIGITAL OUTマークのついたDVD、レーザーディスク、CDなどの再生時に楽しむことができます。MPEG-2 AACは、BSデジタル放送で採用されている音声フォーマットで、この方式のソースの再生時に楽しむことができます。

■ DOLBY PRO LOGIC Ⅱ サラウンド

従来の4チャンネル（左右フロント、センター、モノラルのサラウンドチャンネル）のプロロジックサラウンドと5.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドの橋渡しをする、次世代の5チャンネルサラウンド方式です。映画に最適なMovieモードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで、帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、より移動感のある再生が楽しめます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。
DOLBY SURROUNDマークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のTV番組再生時に楽しむことができます。またMusicモードはCDなどのステレオ音楽で楽しむことができます。

■ アナログ/PCM (Pulse Coding Modulation) サラウンド

アナログソースには、レコード、AM/FM放送、カセットテープなどがあります。PCM（パルスコードモジュレーション）は一種のデジタル音声信号で、圧縮を行わずにCDやDVDに直接記録されます。アナログまたはPCMソースでは、オンキヨー独自のDSP（デジタルシグナルプロセッサー）モードを楽しむことができます。

ORCHESTRA（オーケストラ）
クラシックやオペラに適したモードです。センターチャンネルをカットするとともに、音場イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大きなホールで聴いているような、自然な響きが楽しめます。

UNPLUGGED（アンプラグド）
アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージをつくります。

STUDIO-MIX（スタジオミックス）
ロック、ポピュラーミュージックなどに適した音声効果です。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

TV LOGIC（ティーヴィーロジック）
放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適した音声効果で、局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

ALL CH ST（オールチャンネルステレオ）
BGMとして音楽をかける時に便利なモードです。フロントとサラウンドチャンネルの両方でステレオイメージをつくり出します。

DTS音声についてのお知らせ

- DTSフォーマットで記録されたCDやLDを再生すると、本機が最初のDTSエンコード信号を識別してDTSデコーダーを作動するまでの短時間、ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。
- DTSソースを再生しているときに、プレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。
- DTSソースを再生しているときには、本機のDTSインジケーターが点灯します。DTSソースの再生が終了してプレーヤーからのDTS信号が止まっても、DTSモードのままとなりDTSインジケーターがついたままとなります。これは、プレーヤー側で行う一時停止やスキップなどの操作時に発生するノイズを防止するためです。このため、DTS信号からPCM信号に急に切り換わるソースでは、PCM信号がすぐには再生されない場合があります。このようなときには、プレーヤー側でいったんソースの再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても、正しくDTS再生ができない場合があります。デジタル出力に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機では正しいDTSデータと見なすことができないからです。このような処理を行いながらDTSソースを再生すると、ノイズを発生してしまいます。
- 本機のMD/TAPE OUT、HD OUT、VIDEO 1 OUTの各出力端子は、アナログ音声を出力しています。このため、DTSフォーマットで記録されたCDやLDを録音しようとする場合、DTSエンコード信号をそのままノイズとして録音することとなりますので、DTSフォーマットで記録されたCDやLDは録音しないでください。

入力音源と選択できるリスニングモード

選択できるリスニングモードは、入力音源のタイプによって異なります。以下の表で確認してください。（●のリスニングモードが選択できます。）

入力音源の信号 →		アナログ／PCM*3	ドルビーデジタル*4		DTS	MPEG-2 AAC
			2チャンネル以外	2チャンネル時		
考えられる音源 → リスニングモード ↓		カセットテープ 音楽用CD ビデオCD レコード FM放送 AM放送 HDレコーダー	DVDビデオ LD*5	DVDビデオ LD*5	DVDビデオ 音楽用CD LD	デジタル 衛星放送
	STEREO*1	●	●	●	●	●
サラウンド	DOLBY D		●			
	DTS				●	
	PL II MOVIE	●		●		
	PL II MUSIC	●		●		
	MPEG AAC					●
オンキヨーオリジナルDSPモード*2	ORCHESTRA	●				
	UNPLUGGED	●				
	STUDIO-MIX	●				
	TV LOGIC	●				
	ALL CH STEREO	●				

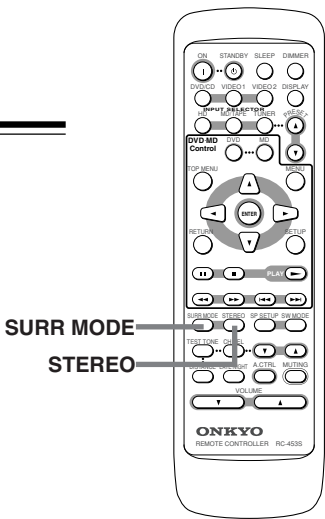
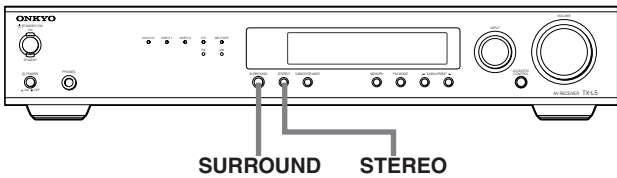
*1 センタースピーカー指定とサラウンドスピーカー指定を『0』に設定したときや、スピーカー構成を『SPEAKER 2ch』に設定したとき、ヘッドホンを使用しているときは「STEREO」のみの選択となります。

*2 サラウンドスピーカー指定を「0」に設定したときや、スピーカー構成を『SPEAKER 2ch』または『SPEAKER 3ch』に設定したときは選択できません。

*3 96kHzのサンプリングレートで記録されたPCMソースは「STEREO」のみの再生となります。

*4 DOLBY DIGITALサラウンド音声が再生されているときは、「DOLBY D」（ソースが2チャンネルのときは「PL II」）と「STEREO」のみの選択となります。

*5 AC-3RF出力端子の付いているLDプレーヤーを接続する場合は、AC-3RFデモジュレーターを通してデジタル入力端子に接続してください。

いろいろな音声効果を楽しむ

Dolby Pro LogicⅡとオンキヨーのオリジナルDSPモードを使う

このリスニングモードに対応する音源については、「入力音源と選択できるリスニングモード」（☞35ページ）を参照してください。

リモコンのSURR MODEか、本体のSURROUNDを押して、『 PL II』か、DSPモードを選ぶ

ボタンを1回押すと、現在の設定が表示されます。
設定表示中に繰り返しボタンを押すと、モードが切り換わります。

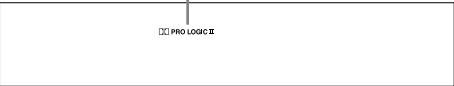
DSPインジケーター

各モードは、次の順序で表示部にあらわれます。

PL II MOVIE → PL II MUSIC → ORCHESTRA → UNPLUGGED → STUDIO-MIX → TV LOGIC → ALL CH ST → PL II MOVIE

ドルビープロロジックⅡについて

- ドルビーサラウンド音声の再生に適しています。
- 表示部に『PL II MOVIE』または『PL II MUSIC』が表示され、◻◻ PRO LOGIC Ⅱインジケーターが点灯します。

◻◻ PRO LOGIC Ⅱインジケーター

- 以下の場合は、表示されません。
  - オンキヨー製のスピーカー設定（☞23ページ）で、センタースピーカーとサラウンドスピーカーの両方に『0』を設定したとき
  - オンキヨー製以外のスピーカー設定（☞26ページ）で『SPEAKER 2ch』を設定したとき

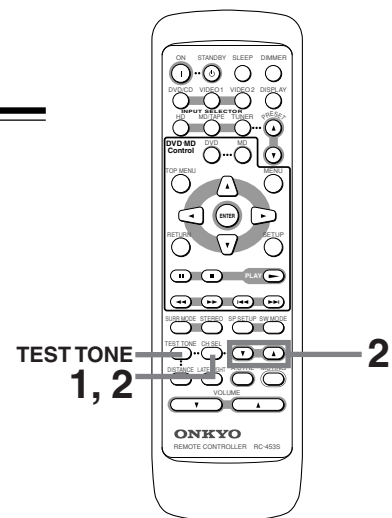
ステレオ音声にする

STEREOを押す

リスニングモードが『STEREO』になり、表示されます。また、STEREOインジケーターが点灯します。

STEREOインジケーター

2カ国語放送受信中の便利な機能

MPEG-2AACの2カ国語放送（プログラムフォーマット1+1）を受信中にSTEREOを押すと、2カ国語音声を同時に聞くことができます。
SURR MODEを押すと、日本語音声／他国語音声を切り換えることができます。

各スピーカーの音量バランスを一時的に調整する

再生している音声を聞きながら、各スピーカーの音量バランスをお好みで調整することができます。
ここで調整した音量バランスは、本機の電源を切るか、主電源をオフにすると、27ページで調整した値に戻ります。
ここで調整した音量バランスを記憶させることもできますが、その場合は、27ページで調整した音量バランスは消えてしまいます。

お知らせ

MUTING中は調整ができません。

1

（各スピーカーからの音量を確認する）

音声再生中に、CH SEL（チャンネル セレクト）を繰り返し押す

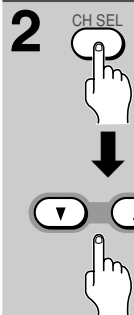
次の順序でスピーカーが表示され、表示されたスピーカーのみから音声が出力されます。

LEFT（左フロント）
↓
CENTER（センター）
↓
RIGHT（右フロント）
↓
SURR RIGHT（右サラウンド）
↓
SURR LEFT（左サラウンド）
↓
SUBWOOFER（サブウーファー）
↓
音量バランス調整モードがオフになります。

LEFT 0 dB

お知らせ

実際に接続していても、設定したスピーカー構成にないスピーカーは、選ばれません。

2

（各スピーカーの音量を調整する）

音声再生中にCH SELを（繰り返し）押してスピーカーを選び、リモコンの▲/▼を押して、音量を調整する

音量レベルは－12dB～+12dBの間で調整できます。

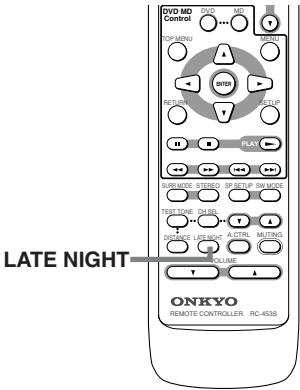
■ 調整した内容を記憶させるには

TEST TONE

TEST TONEを押す

LATE NIGHT(レイト ナイト)機能を使う

LATE NIGHTはドルビーデジタルサラウンド音声に対してはたらきます。

劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差（ダイナミックレンジ）が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞こうとすると、かなり音量をあげる必要があります。レイトナイト機能は、ダイナミックレンジを小さくし、全体の音量をあげずに小さな音も聞こえるように調整します。
夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに特に役立ちます。

LATE NIGHTを押す

現在の設定が表示されます。
表示中にボタンを（繰り返し）押すと、設定が切り換わります。

- DOLBY DIGITALサラウンド音声再生中は、『LATE NIGHT』の『LOW』、『HIGH』、『OFF』から選択できます。

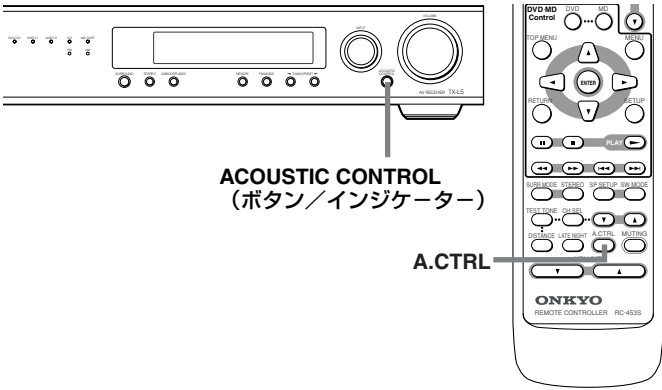
OFF： レイトナイト機能をオフにします
LOW： ダイナミックレンジを小さくします
HIGH： ダイナミックレンジをさらに小さくします

LATE NIGHT=LOW

お知らせ

- LATE NIGHT機能は、再生しているドルビーデジタルのソフトによって効果がうすかったり、なかったりする場合があります。
- ドルビーデジタル以外のソフトを再生しているときには、「NOT AVAILABLE」と表示され、この機能は使用できません。
- 本機をスタンバイ状態にすると、LATE NIGHTは「OFF」に戻ります。

重低音／高音を強調する〈Acoustic Control(アコースティック コントロール)〉

小音量でも、重低音や高音を強調した迫力のあるサウンドを楽しむことができます。音声方式に関係なく設定できます。

リモコンのA.CTRL、または、本体のACOUSTIC CONTROLを押す

ボタンを押す度に、以下のようにモードが変わります。

『A.CONTROL OFF』（アコースティックコントロール　オフ）が表示され、ACOUSTIC CONTROLインジケーターが消灯します。

A.CONTROL OFF

↓

『A.CONTROL 1』（アコースティックコントロール1）が表示され、ACOUSTIC CONTROLインジケーターが点灯します。

フロントスピーカーの重低音が強調されます。

↓

『A.CONTROL 2』（アコースティックコントロール2）が表示され、ACOUSTIC CONTROLインジケーターが点灯します。

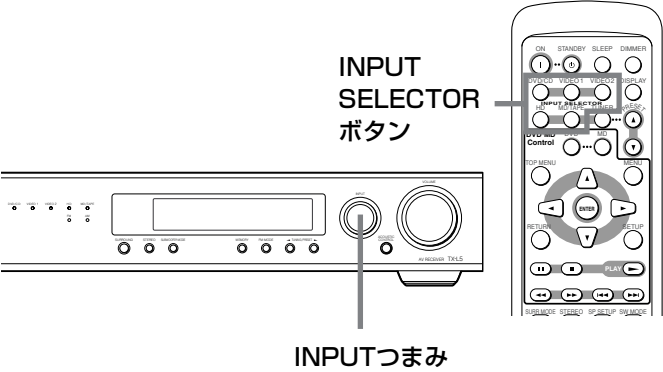
フロントスピーカーの重低音がさらに強調され、高音も強調されます。

お知らせ

DIMMERボタンで消灯しているときにアコースティックコントロールの状態を確認したいときは、ACOUSTIC CONTROLもしくはリモコンのA.CTRLを押してください。現在の状態を表示します。

録音・録画する ※あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作憲法上、権利者に無断で使用できません。

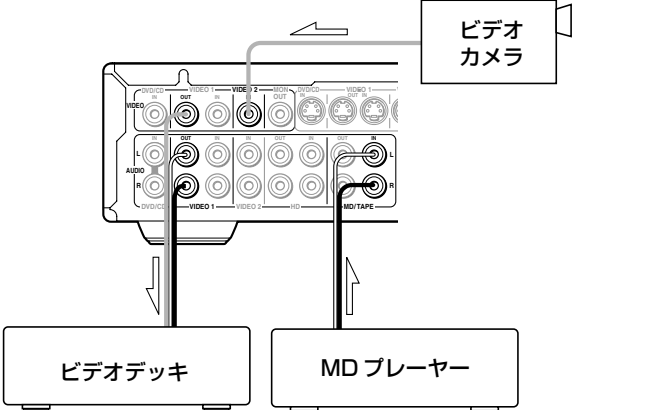
音楽や映画を再生しながら録音・録画する

VIDEO 1 OUT、HD OUT（録音のみ）、MD/TAPE OUT（録音のみ）端子に接続した機器で録音・録画します。

1 リモコン 	**リモコンのINPUT SELECTORを押すか、本体のINPUTつまみを回して、録音・録画したいソースを選ぶ** 現在選択中のソースからの信号がVIDEO 1 OUT、HD OUT、MD/TAPE OUTの各出力端子に出力され、録音・録画可能な状態になります。
2	**録音・録画機器で、録音・録画を始める**

お知らせ

- デジタル音声は録音できません。録音できるのはアナログ音声だけですので、アナログ接続を確実にしてください。
- 録音・録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースからの信号が録音・録画されます。
- サラウンド効果は録音されません。

異なるソースの音楽と映像を録音・録画する

MD/TAPEやHD端子に接続した機器の音をVIDEO 2の映像に加えて、オリジナルビデオを作成できます。
以下の手順は、MD/TAPE L/R端子に接続したMDプレーヤーの音声とVIDEO 2 IN VIDEO端子に接続したビデオカメラの映像をVIDEO 1 OUT L/R、VIDEO端子に接続したビデオデッキで録音・録画する例です。

1	**MDプレーヤーにMDをセットし、VIDEO 2端子に接続したビデオカメラにテープをセットする**
2	**VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキにビデオテープをセットする**
3	**リモコンのINPUT SELECTORのVIDEO 2を押す**
4	**リモコンのINPUT SELECTORのMD/TAPEを押す** 音声出力はMDに変わりますが、映像出力は手順3で選んだVIDEO 2のまま変わりません。
5	**VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、VIDEO 2端子に接続したビデオカメラとMDプレーヤーの再生を始める** 映像はビデオカメラから録画し、音声はMDプレーヤーから録音されます。

お知らせ

- デジタル音声は録音できません。録音できるのはアナログ音声だけですので、アナログ接続を確実に行っておいてください。
- 録音・録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースからの信号が録音・録画されます。
- サラウンド効果は録音されません。

故障? と思ったら

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキヨーサービスステーションまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（TX-L5）」と、「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
アンプ部	● 電源が入らない。	● 電源プラグの差し込みが不完全になっている。 ● 主電源がOFFになっている。 ● 本機内蔵のコンピューターが、外部からのノイズに影響を受けた。 ● 本機内部のヒューズが飛んだ。	● 電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。 ● 主電源をONにしてください。 ● 一度主電源を切ってから、主電源を入れ直してください。それでも回復しない場合は、電源コードを一度抜いてから、再度コンセントに接続してください。 ● オンキヨーサービスステーションにご連絡ください。	20 20 20 43
	● 音が出ない。	● ミューティング機能が働いている。 ● 接続に問題がある。 ● ヘッドホンを接続している。	● リモコンのMUTINGを押して、ミューティングを解除してください。 ● 接続を点検してください。 ● 音量を下げてからヘッドホンをはずしてください。	33 14～19 33
	● センタースピーカーから音が出ない、または、非常に小さい音しか出ない。	● スピーカーが正しく接続されていない。 ● サラウンドモードが『STEREO』か『ORCHESTRA』になっている。 ● 各スピーカーの音量バランス調整で、センタースピーカーの音量を小さくした。 ● センタースピーカーが存在しない設定になっている。 ● センタースピーカーがある設定をしているのにセンタースピーカーが接続されていない。	● スピーカー接続を確認してください。 ● 『STEREO』や『ORCHESTRA』のときはセンタースピーカーから音がでません。 ● センタースピーカーの音量を再調整してください。 ● スピーカー構成の設定で、センタースピーカーが存在する設定になっているか、確認してください。 ● センタースピーカーの接続を確認してください。あるいは、センタースピーカーの無い設定にしなおしてください。	17 34 27、37 23、26 23、26
	● 他機で再生した映像がテレビ画面にあらわれない。	● テレビが本機を接続した入力に設定されていない。 ● ビデオケーブルが正しく接続されていない。 ● Sビデオ接続のみをしている。	● テレビの入力を、本機を接続した入力端子に対応した入力に切り換えてください。 ● 本機とテレビの接続を確認してください。 ● 通常のビデオ接続もおこなってください。	－ 14 14、15
	● 再生中の音声が聞こえない。	● 別の入力が選ばれている。	● 再生している機器の入力を選んでください。	30
	● リモコンのボタンも、本体のボタンもはたらかない。	● 電源の電圧の変動や、静電気などによって動作がおかしくなった。	● 一度主電源を切ってから、主電源を入れ直してください。それでも回復しない場合は、電源コードを一度抜いてから、再度コンセントに接続してください。	20
リモコン	● 本体のボタンははたらくが、リモコンのボタンがはたらかない。	● リモコンが、操作しようとしている機能モードになっていない。 ● リモコンに乾電池が入っていないか、電池が切れている。 ● リモコンの送信部が本体の受光部に向けられていない。 ● リモコンが本体から遠すぎる。	● リモコンを操作する前に、DVDまたはMDボタンを押してください。 ● 新しい乾電池をリモコンに入れてください。 ● リモコンの送信部を本体の受光部に向けて操作してください。 ● リモコンは、本体から5m以内のところで操作してください。	31 9 9 9

<table>
<tr><th></th><th>症　状</th><th>原　因</th><th>処　置</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="8">チューナー</td><td>● FMステレオ放送のとき、モノラル放送にくらべ、サーというノイズが出る。</td><td>● FMステレオ電波はモノラル電波に比べ、変調のしかたが異なるので放送局の電波の強さによってはノイズが少し出ます。</td><td>● モノラルで受信してください。</td><td>28</td></tr>
<tr><td>● モノラル放送、ステレオ放送ともノイズが多い。</td><td>● アンテナの設置場所や向きが不適当。
● 放送電波が弱い。</td><td rowspan="5">● アンテナの設置場所、高さ、方向を変えてみてください。
● 室内アンテナなら屋外アンテナにしてください。
● 素子数の多いアンテナに変えてみてください。（アンテナ工事には技術と経験が必要ですので販売店にご相談ください。）</td><td rowspan="5">18、19
18、19
–</td></tr>
<tr><td>● FMステレオ放送でFM STEREOインジケーターが点滅し、完全に点灯しない。</td><td>● アンテナの向きが不適当。
● 放送電波が弱い。</td></tr>
<tr><td>● 音がひずんだり小さくなったりする。</td><td>● 電波が乱れている。
● 近くを自動車が走っていたり、飛行機が飛んでいる。</td></tr>
<tr><td>● ステレオ放送でノイズが多く、ときどき音が出なくなる。</td><td>● アンテナの設置場所や向きが不適当。
● 放送電波が弱い。</td></tr>
<tr><td>● FMステレオ放送で音にひずみが多い。</td><td>● 近くにビルや山がある。［送信所からの電波（直接波）とビルや山に反射した電波（反射波）との干渉によりマルチパスひずみが生じている。］</td></tr>
<tr><td>● AM放送受信時、ノイズが入る。</td><td>● 電気器具がすぐそばにあり、電源が入っている。</td><td>● AM室内アンテナを電気器具から離してください。
● 電気器具の電源を切ってください。</td><td>–</td></tr>
<tr><td>● プリセットした放送局が選べない</td><td>● 長時間電源コードがコンセントから抜かれていたか、主電源が切られていたため、プリセット内容が消失した。</td><td>● 再度放送局のプリセットを行ってください。</td><td>29</td></tr>
<tr><td>録音</td><td>● スピーカーから音声は聞こえるが、録音できない。</td><td>● DTSサラウンド音声を録音しようとしている。</td><td>● DTSサラウンド音声は録音できません。
● アナログ接続をしてください。</td><td>39</td></tr>
</table>

誤動作するときは

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、本体のSUBWOOFER MODEを押しながら、⏻ STANDBY/ONを押してください。『Clear（クリア）』が本体表示部に表示されたのち、スタンバイ状態となり、工場出荷時の状態になります。ただし、お客様が設定した内容もすべて消えますので、改めて設定しなおしてください。

主な仕様

■ アンプ部

定格出力

全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）
28W　6Ω　1kHz（EIAJ）
22W　6Ω　1kHz、全高調波歪率0.6%

ダイナミックパワー（左右フロントチャンネルのみ駆動時）
6Ω　26W × 2
8Ω　22W × 2

全高調波ひずみ率：定格出力時で0.6%

混変調ひずみ率：定格出力時で0.6%

ダンピングファクター：8Ω負荷時で40

入力感度/インピーダンス
DIGITAL INPUT（OPTICAL）DVD、HD、VIDEO 2 ：0.5Vp-p/75Ω
LINE（DVD/CD、VIDEO 1、2、HD、TAPE/MD ：150mV/50kΩ
コンポジット（VIDEO 1、2） ：1Vp-p/75Ω
S-VIDEO（DVD、VIDEO 1、2）（Y信号）：1Vp-p/75Ω
（C信号）：0.28Vp-p/75Ω

定格出力/インピーダンス
REC OUT（VIDEO 1、TAPE/MD、HD）：150mV/2.2kΩ
SUB WOOFER PRE OUT：1V/2.2kΩ
コンポジット（MON OUT、VIDEO 1）：1Vp-p/75Ω
S-VIDEO（MON OUT、VIDEO 1）
（Y信号）：1Vp-p/75Ω
（C信号）：0.28Vp-p/75Ω

周波数特性：10〜70kHz ＋／－1.5dB

アコースティックコントロール　1：+6dB（40Hz時）
2：+10dB（40Hz時）
+7dB（10kHz時）

SN比：100dB（IHF）

ミュート：－∞dB

■ チューナー部

FM
受信範囲：76.0〜90.0 MHz（100kHzステップ）
実用感度
モノラル：11.2dBf、1.0μV（75Ω）
ステレオ：17.2dBf、2.0μV（75Ω）
キャプチャレシオ：2.0dB
イメージ妨害比：40dB
IF妨害比：90dB
SN比
モノラル：76dB
ステレオ：70dB
2信号選択度：55dB
AM抑圧比：50dB
ひずみ率
モノラル：0.2%
ステレオ：0.3%
周波数特性：30〜15,000Hz、+/－1.0dB
ステレオセパレーション：45dB（1kHz）
：30dB（100〜10,000Hz）
ミューティングレベル：17.2dBf

AM
受信範囲：522〜1,629kHz（9kHzステップ）
実用感度：30μV
イメージ妨害比：40dB
IF妨害比：40dB
SN比：40dB
ひずみ率：0.7%

■ 一般仕様

使用電源：AC 100V、50/60Hz

消費電力（電気用品安全法技術基準）：90W

外形寸法：435（幅）× 81（高さ）× 377（奥行き）mm

質量：6.1kg

■ リモコン RC-453S

方式：赤外線

信号到達距離：約5m

使用電池：単3型（1.5V）乾電池2個

※ 仕様および外観は予告なく変更することがあります。

ONKYO

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お 客 様 ご相談窓口	カスタマーセンター　受付　9:30～17:30（土日祝、弊社休日除く） ■カタログのご請求、製品についてのご相談 ＊e-mail ：ホームシアター/オーディオ製品　→ customer@onkyo.co.jp マルチメディア製品　→ mmcadmin@onkyo.co.jp ＊TEL.　：ナビダイヤル 0570 - 01 - 8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） または 072 - 831 - 8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。 ＊FAX.　： 072 - 831 - 8124 ＊〒572 - 8540　大阪府寝屋川市日新町２－１

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ　→ http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ　→ http://www.e–onkyo.com

修理窓口

修理のご依頼は、取扱説明書の「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障で、お困りの場合は、下記へご相談ください。

パソコン用スピーカー以外のマルチメディア製品は、

マルチメディアサポートセンター	TEL 072 - 831 - 7305　FAX 072 - 831 - 8124 〒572 - 8540大阪府寝屋川市日新町２- 1

ホームシアター/オーディオ製品とパソコン用スピーカーは、

地区 / 窓口	連絡先
北海道地区	
札幌サービスステーション	TEL 011 - 747 - 6612　FAX 011 - 747 - 6619 〒001 - 0028札幌市北区北２８条西5 - 1 - 28　トーシン北 28 条ビル
青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島地区	
仙台サービスステーション	TEL 022 - 297 - 0571　FAX 022 - 257 - 7330 〒984 - 0051仙台市若林区新寺4 - 9 - 5　第二丸昌ビル1F
茨城・栃木地区	
宇都宮サービスステーション	TEL 028 - 634 - 4307　FAX 028 - 634 - 4308 〒320 - 0831 栃木県宇都宮市新町2 - 7 - 7
群馬・埼玉・新潟地区	
大宮サービスステーション	TEL 048 - 651 - 8612　FAX 048 - 651 - 9137 〒330 - 0034 埼玉県さいたま市土呂町2 - 29 - 2　高安ビル１F
千葉・東京（23区）地区	
東京サービスセンター	TEL 03 - 3861 - 8121　FAX 03 - 3861 - 8124 〒111 - 0054 東京都台東区鳥越１- 2 - 3　ハマスエビル
東京（23区を除く）・山梨・長野地区	
八王子サービスステーション	TEL 0426 - 32 - 8030　FAX 0426 - 36 - 9312 〒192 - 0914 東京都八王子市片倉町 358 番地
神奈川地区	
横浜サービスステーション	TEL 045 - 322 - 9342　FAX 045 - 312 - 6603 〒220 - 0072 横浜市西区浅間町1 - 13　共益ビル５F
岐阜・静岡・愛知・三重地区	
名古屋サービスステーション	TEL 052 - 772 - 1229　FAX 052 - 772 - 1331 〒465 - 0013 名古屋市名東区社口１丁目1001 番
富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山地区	
大阪サービスセンター	TEL 06 - 6576 - 7620　FAX 06 - 6576 - 7604 〒552 - 0013 大阪市港区福崎2丁目１番地 49 号
鳥取・島根・岡山・広島・山口（下関を除く）地区	
広島サービスステーション	TEL 082 - 262 - 3315　FAX 082 - 262 - 6571 〒732 - 0057 広島市東区二葉の里2 - 8 - 28
徳島・香川・愛媛・高知地区	
高松サービスステーション	TEL 087 - 868 - 5662　FAX 087 - 868 - 5672 〒760 - 0079 高松市松縄町44 - 8　西原ビル1F
山口（下関）・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄地区	
福岡サービスステーション	TEL 092 - 418 - 1357　FAX 092 - 418 - 1358 〒812 - 0006 福岡市博多区上牟田3 - 8 - 19　みなみビル202

2001年06月 現在　お客様相談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

F -1

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。
本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　　(　　)
メモ：

■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(ＴＸ-Ｌ５)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

ONKYO®
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくはオンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎ 03(3861)8121　●大阪サービスセンター　☎ 06(6576)7620

SN 29343139

W0106-1